

コフロック

水素・窒素発生装置開発 リークテスト向けなどを ターゲットに

コフロック（京都府京田辺市、小島望社長）は水素・窒素発生装置を開発し4月から販売開始している。ターゲットは自動車や家電などのリークテストや雰囲気処理、ボンディング向けなど。

今回発売した『Dr.ONE SEVEN』はPSA式による窒素発生装置と水電解式水素発生ユニットを組み合わせたオンサイト型ガス発生装置。最大の特徴はマスフローコントローラー（MFC）を搭載していることにより発生ガスの流量や混合率を調整できること。

同社船井厚志フロシステム事業部事業部長は「慢性的なヘリウム不足からリークテスト用途にヘリウムではなく水素・窒素のサーチガスを利用するケースが増えてきてい

る。ポンベを使った混合装置や発生装置を組み合わせた機器などが市場にあるが、リークテスト用途に特化しており1台で複数の用途に使えるものは少なかった」とする。

同社は発生装置に自社製MFCを搭載することでユーザーの用途にあわせて流量や混合率を調整できる機器として開発した。また、発生装置の中に圧縮機も搭載しており精製水と電源さえあれば設置後付帯工事などなくとも稼働できる。

主な仕様はW1200×D840×H1590mm、流量は水素が0.1～2.0SLM（ℓ/分）、窒素が2.5～48.0SLM、混合ガスとしては2.6～50.0SLM。なお、1Nm³の混合ガスH₂+N₂（水素4%）を発生させる為に約1・36kWの電力と約30ccの精製水が必要となる。今後、他の様々な機能を持つ混合ガス発生装置についても開発していきたい意向を示している。



『Dr.ONE SEVEN』